

7月7日、学部3年生を対象に恒例の「OB・OGと語る会」が開催されました。今年は田中良弘氏（電気化学科 昭和45年卒、(株)環境研究所 代表取締役、青山学院大学非常勤講師）と青木大祐氏（物質工学科 平成20年卒 (株)リコー）のお二方に講演をしていただきました。講演後はお二方を囲んで、懇親会が行われ、その席上でも熱心に話し合う姿が見られました。

以下にお二方のご講演の内容と学生たちの感想のアンケート結果を掲載させていただきます。

本会の参加者からは大変良い機会を提供いただいたと非常に好評で、今後も継続開催の要望が寄せられました。  
(会誌・名簿グループ)

### 「公害」から「環境」への移行で考えてきたことなど

田中 良弘（昭和45年電化卒）

振り返れば化学をよりどころにした仕事をしてきましたが、学生諸君に語って意義のある実績も見当たらないままに、YNUホームページの「化学・生命系学科の沿革」を見ていた私は、大学の工学部から理工学部へ変遷していく様子が自分の履歴と重なるように思えてきました。

鶴岡先生の勧めを同級の高橋道雄君から伝えられて飛び込んだ公害防止産業界は、多くが化学系技術者によって占められていました。私は、文献・出版物などを読んで実験室で反応や装置を思いついたり、現場では装置を運転しながら想像と創造を学ぶ一方で自分の専門分野を模索したりしていましたが、環境に向けた国際社会の意識の拡大につれて私の活動の内容と範囲も変化していき、視点も俯瞰的になっていきました。大学の「沿革」はその私を思い出させました。本州四国連絡橋に係る環境調査で、常盤台の新キャンパスに新設された「環境科学研究センター」に通って松野、加藤両教授から指導を受けていたときは、環境問題に学問の創出を感じました。学生時代、私たち学生の希望に教授たちが答えて実現した先輩講師による輪講で知った“情報化社会”も既に現実になり、時代は確かに変化しています。「公害」から「環境」へと変わり、共に変化してきた私の考えなどを語ることは少しは意味があるかなとも思い、鈴木副会長からの「OBと語る会」への誘いの答えにすることにしました。

話の内容は①公害の防止装置、②環境の問題、③仕事、そして④今、興味あることに分け、人が科学



技術を用いて環境を破壊・汚染して生じた環境問題はあらゆる分野の学問と繋がっていて科学・技術だけでは解決が不可能であること、技術者がつくり出した科学技術を社会に受け入れてもらうためには技術者自身が自分の言葉で丁寧に語る必要があること、そして専門性を身につける一方で専門以外の様々な知識に通暁していることが求められること、またリーダーになるためには信頼されることが大切であることなどをレジュメを付けて話しました。

学生からは、環境問題でわが国の先端分野は何か？ 公害防止はコストなのではないか？ の質問がありました。時間をかけて話し合うと面白い展開が期待できそうな姿勢を感じました。その後の懇親会でも同様の話が続き、その内容は自然科学、人文社会科学にわたるもので、理工学部の学生の関心は広いものがあります。学生にはプライド、自信そして謙虚さを感じました。そこで、自分の哲学をもつこと、事業を立ち上げるときの仲間になれるいろいろな分野の多くの友達をつくっておくとよいという

ようなことも伝えました。

学生が社会での活動の姿を思い描いておくことは大切であると思います。夢は実現できるからです。

大学で何を学んでおくかを考え、広く勉学に励むことに繋がると思います。人生についてはOBたちが語っていくこともよいのではないかと思います。

## 好きを諦めないこと

青木 大祐（平成20年物工卒）

この度大学3年生への「進路の啓蒙」に関しまして、講義する機会を頂きました。

「“学生は社会人と比べて時間がある”なんて事は分かっているが何をすれば良いか分からない」、「研究室配属が近づくが何が自分の将来にとって最適な選択か分からない」、当時大学3年生の私はその様な危機感を募らせておりました。

そんな事を振り返りつつ、当時何を知りたかったのかと自問自答を繰り返し、①「化学系卒業生の働き方」②「私の持つキャリア観の共有」の2点を中心に講義を展開することに致しました。

### ① 化学系卒業生の働き方

株式会社リコーに入社してから6年間、研究から開発、量産、市場問題対応の一連の業務に携わって参りましたが、研究室時代の専門である「高分子化学」がどのように実務に役に立ってきたか具体的にお伝えしました。私以外の卒業生3人のリコーにおける多様な働き方も紹介致しました。

恐らく学生皆様は、「精密機器メーカー」でのキャリアは想像し難かったかと思います。化学といってもキャリアは無限です。多様な働き方ができるし、同じ会社内ですら働き方は多様です。

### ② 私の持つキャリア観の共有

「学生実験でPMMAの再沈殿に失敗して、お餅みたいになってしまった！」

「英語で語りあい文化の違う人の想いに触れられ



た！」当時大学3年生で感じた「何気ない感動」が、今後のキャリアの基礎を形作るなんて思ってもいませんでした。

現在私は新規事業開発本部にて、会社の次世代事業創出、特に3Dプリンター事業に携わっております。一見唐突に見える私のキャリアではありますが、冒頭で述べた2つの「何気ない感動」を出発点とし、一つ一つ積み重ねて来たキャリアでもあります。

大学3年という自分に向き合える時間があるからこそ、「何気ない感動」に沢山触れ、突き詰める機会があります。そして無心で突き詰めた興味が、もしかしたら一生のアイデンティティーを形成するかもしれません。裏を返せば、自分の気持ちに正直にならず努力を怠ればチャンスを掴めないかもしれません。「好きを諦めないこと」、これこそが基礎となるキャリア観だと私は考えております。

## 「OB/OG と語る会」アンケート結果

研究職として働くこととはどのようなことなのか具体的に理解できました。

今後研究室に入ってから就職するまでの流れは参考になった。

プロフェッショナルとしての仕事をしている人の話を聞くのは楽しいものでした。

学生の間のできるすべてのことに努力をして、多くの経験をすべきであると感じた。

今の自分にはやりたいことが全然分かっていないので、ちょっとした道標を提案してもらった気がして、とてもためになる話だった。

化学を学ぼうと興味をもって学ぶことが大切で、これからを考える上で大事なことを聞くことができたと思う。

今のうちに様々な経験を積むべきだと思った。会社だと化学だけでなく様々な分野の複合体であるのだと思った。

人々が持つ世界観は共通な部分と独自の部分があると再認識した。同じ国大の先輩には大企業のトップクラスで働いている人がいるのだと知り、とてもすごいと思った。時間がある3年生のうちに好きなことを見つけていくことが大切だと思いました。

色んなバックグラウンドの人と関わるって大事だと、そこで意見を求められたら自分の分野での責任も出てくるから、自分のことをしっかりやらなければいけないと思いました。

年の離れた方と年の近い方の両方からお話を聞いて良かった。すべてのものは化学だけからなるのではなく、様々な技術からなるのだと思った。

“キャリア”や“働く”ということに対して、漠然としたイメージしかなかったので、自分

も考えるきっかけになりました。また少しでも将来に向けて、始めることが大切だと思いました。自分も特に英語を頑張りたいです。

化学に対する小さな感動や、興味・関心が自分の将来につながるささいな一歩であると感じ、今後の学生生活の中でそういった細かな発見を大切にしていきたいと思った。

環境全体を考えると、化学の専門知識だけではだめ、ということから幅広い知識を持って環境問題にかかわれば良いなと思った。

私が今まで知らなかった社会での化学の役立っている様子や、社会の仕組みなどが分かってよかったです。

OBの方の話は今までプラント系が多かったから、新しいジャンルの企業の話が聞いて参考になった。

実際の一日の働き方など普段なかなか聞けない話が聞いて良かったです。

人生の先輩というだけでなく、化学の知識を活かしてこられた方々の話をきくことは有益だと思った。

化学者として社会に出てからも、様々な場面において別の分野について学ぶ機会があることが分かり嬉しく思った。

学生の頃とは全く違う環境で研究することは大変だけど、やりがいのあることだと感じた。

自分の仕事に対して、責任であったりやりがいを感じながら仕事をされているなという印象を受けた。

普段はあまり実際に化学科を卒業して働いている方にお話を伺う機会がなかったので、将来の仕事と現在の勉強が少し結び付きました。将来の仕事についてとても悩んでいたのに、

自分の好きなことを仕事にしたほうが良いというお話しが、とても参考になりました。

社会は今自分がいる世界よりずっと広いと思いました。  
働くことのイメージが生まれました。

社会人になることへの不安を感じました。先輩の話を知っていると、もっと勉強しなければならぬと感じました。

自分が今学んでいることが社会に出てどのように活かしていけるのかが分かり、就職に向けて知識が深まりました。

これまで3年まで授業を受けてきて、知識は身に付くが、実際将来どう活かしていくかというのが、全く実感が分からなかったが、OBの方々の話を聞いて、将来に向けて、意欲が湧いたし、面白いと思いました。

自分の身に着けた知識を活かすために、社会のニーズを知らなければと感じた。それには新聞を読んだりするなど、専門分野だけでなく、時事についてもよく知っているようになりたいと感じた。

これから先の就職活動は、日本だけでなく世界に目を向けなければ大きくなれない。また専門技術が出来るだけでは平凡な人間で終わる。

一言に企業で働くと言っても、化学メーカーと精密機器メーカーでは、研究する内容や関わるポイントが大きく異なるのだと知り、驚いた。

現在学んでいる化学は具体的な製品などを想定していないが、それらを想定して実際に用いている社会人と接してみて、将来についての参考になった。

公害対策で、日本が世界のトップだということを知らなかったのが、びっくりした。

実際に化学屋がどのように社会に貢献しているのか、より具体的にイメージとなったように感じた。

受動的に大学生生活を送っているのはダメだと強く感じた。今のうちに将来設計をしっかりとしていき能動的となることで、大学生生活を有意義なものにしたいと思った。